

国立大アイソトープセンター長会議を開催 (広島大)

「第40回国立大学アイソトープ総合センター長会議」が、去る6月1日・2日の両日、広島大学東広島キャンパスで開催された。同会議は、国立大学アイソトープ総合センターのセンター長や専任教員が放射線安全管理に関する協力や情報交換を行い、放射線同位元素等の利用での研究・教育の発展につなげることを目的としている。



松本放射線検査管理官

会議では原子力規制庁放射線対策・保障措置課放射線規制室の松本武彦放射線検査管理官が「放射線障害防止法関係の最近の動向」、文科省研究振興局学術機関課の中島大輔研究設備係長(併)研究支援係長が「学術研究を取り巻く動向」、広島大大学院生物圏科学研究科の長沼毅教授が「放射線で生きる微生物」と題してそれぞれ講演。全国21大学からの参加者60人が熱心に耳を傾けた。

中島係長

参加者は、①放射線施設の脆弱性と対応、②放射線施設の緊急時対応、③アイソトープ総合センターの現状と課題及び今後の展望―をテーマに、活動報告や意見交換を行うなど情報交換に努めた。

国立大保健医療学系代表者協議会等を開催 (山形大)

第11回(平成28年)国立大学保健医療学系代表者協議会が、6月6日に山形大学医学部看護学科が当番大学を務めて開催されたII写真II。協議会には、保健医療学系の学部、学科及び研究科を有する全国43の国立大学が加盟。共通した教育・研究の諸課題や関連する重要事項を協議し、わが国における教育・研究環境等の発展につなげることを目的としている。開催にあたっては、博士課程を有する国立大学が当番大学を担当しており、今回は



講演する嘉山医学部参与

43大学から115名が参加した。協議会では、嘉山孝正医学部参与による「これからの看護職」と題した講演後、文科省高等教育局医学教育課の島居剛志課長補佐による「最近の保健医療学系を取り巻く諸問題等について」と題した講演が引き続き行われた。また、①グローバル化、②クォーター制導入、③学部学生の卒業時達成度評価―に関して特徴的な取り組みを進めている大学が、プレゼンテーションを行った。



島居課長補佐

43大学から115名が参加した。協議会では、嘉山孝正医学部参与による「これからの看護職」と題した講演後、文科省高等教育局医学教育課の島居剛志課長補佐による「最近の保健医療学系を取り巻く諸問題等について」と題した講演が引き続き行われた。また、①グローバル化、②クォーター制導入、③学部学生の卒業時達成度評価―に関して特徴的な取り組みを進めている大学が、プレゼンテーションを行った。



活発に質問などを寄せる出席者